

麻布大学 いのちの博物館

(神奈川県相模原市)

高さ4・5歳のキリンや、長さ5・4歳のアナコンダなど、ずらりと並ぶ全身骨格標本は、レプリカではなく、すべて本物。獣医学を専門にする麻布大学の標本室にあった教材などを集めた。

ひときわ存在感を放つのが、中男とひさるの体高2・5歳のアフリカゾウ。アフリカゾウに次ぐ地上最大の動物を支える足の骨は、丸太のよ

本物ずらり骨・血管標本

うにたい。手前に置かれた、手のひらサイズのハムスターの標本と比べて、その大きさに驚かされる。同大の元教授で主務学芸員の高橋成紀さん(初)は「骨の基本構造は同じでも、大きさは様々。生物の多様性を実感してほしい」と話す。

隣のハンストワイルカは水中生活に適応して、前後肢が短く進化した。後肢は退化している。首

はないまに現るが、キリンなど他の哺乳類と同じように、7本の首の骨がある。

「この目玉くのは、血管の標本。アザラシやオットセイ、イルカの肺や肝臓などに張り巡らされた血管は、赤や青に染色されている。細かい網目状で、サンゴのように美しく、生命の神秘を感じさせる。これらは、本物の血管に液

状のプラスチックを流し込み、固まった後、薬品で血管の表面組織を溶かし作られた「プラスチック複製標本」。同大の二宮博義名誉教授が製作した。子供に人気なのは、シカやゾウの骨に触れることができることだ。

ミュージアム
行こう

「ハンズオンコーナー」10歳日限定、学生ボランティアが個別に説明をしてくれる。多言語の手帳に説明書がある。

「本物を見て触れることで命を身近に感じてほしい」と高橋さんは思いを語る。相模原市の水口果穂ちゃん(3)は「ゾウの足の骨がこんなに大きかった」と笑顔を見せた。

記者も骨に手をあててみた。すべすべして、冷たくも温かくもない。持ち上げる、すしり、命の重みを感じる。(文・山田明代 写真・八木昭恵)



アジアゾウの全身骨格標本(中志)やサイなどの標本の標本はすべて本物。大きさを実感できる。

トモ
大学創立125周年の2015年、市民に研究内容を知ってもらおうと、学生食堂だったホールを改装して開館。骨格標本や動物模型など約300点を展示している。観覧中に「説明」し、被災を免れた模型教材など貴重な資料もある。

住所 神奈川県相模原市中央区湖野辺1の17の1
開館時間 午前10時～午後4時。休館日は月曜、日曜、祝日など。
入館料 無料
問い合わせ 042-850-2520



- ① 赤く染色されたイルカの肝臓の標本。張り巡らされた細い血管はサンゴのようだ
- ② ハンズオンコーナーでは、学生の説明を聴けながら、ゾウのあごの骨にも触れることができる
- ③ 見応えがあるアナコンダの全身骨格標本